

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 ◆D-20-1-2

事業名 津波避難所耐震改修事業

事業費 総額 92,250 千円

(内訳: 設計費 6,930 千円, 工事費 82,080 千円, 監理費 3,240 千円)

事業期間 平成 25 年度～平成 27 年度

事業目的・事業地区

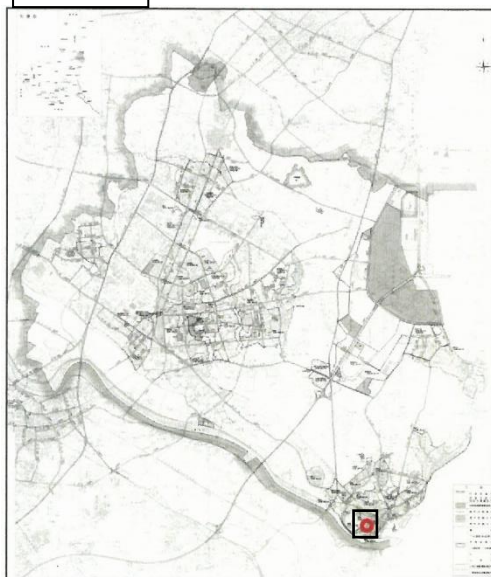
津波災害時の避難所となる湊公園ふれあい館(旧名称: 那珂湊勤労青少年ホーム)(集会室棟, 体育室棟)の耐震改修・修繕等を行う。

当該施設は, 津波避難路が整備されている湊公園のある丘陵部に立地している災害時避難所施設である。しかし, 東日本大震災前に実施した耐震診断において, 集会室棟, 体育室棟ともに将来想定される地震に対して, 設定した耐震性能が確保されていない建物と判定された。

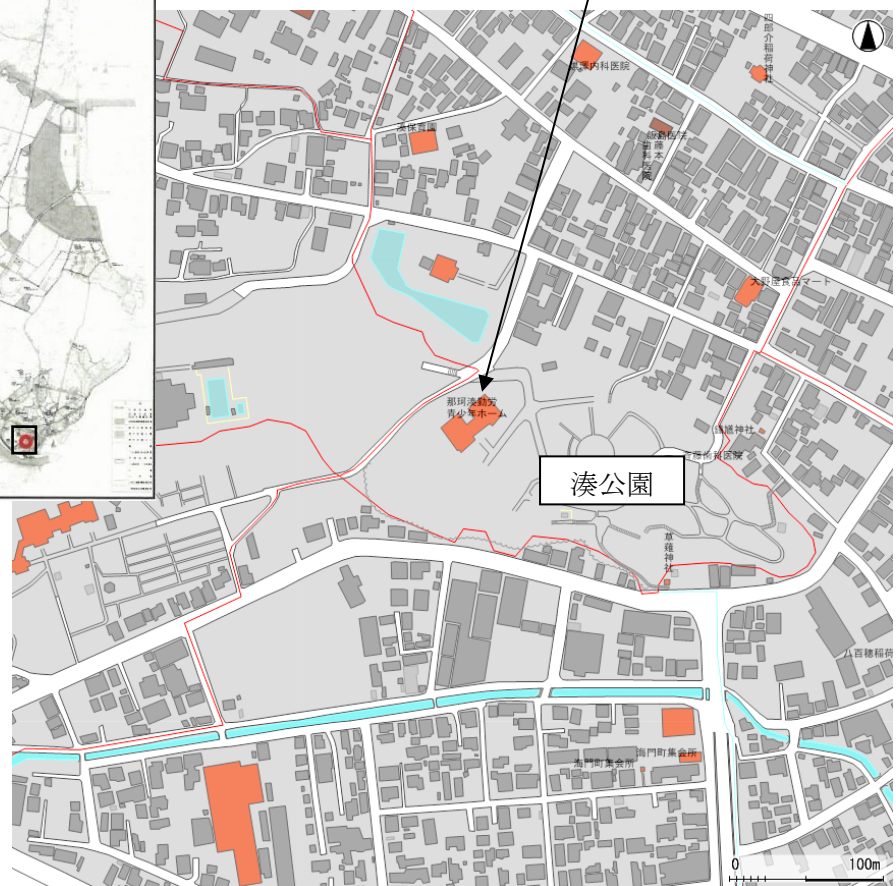
東日本大震災時には, 約 100 人の地域住民が避難したが, 体育室棟の窓ガラスが割れ, 避難場所として利用できたのは集会室棟のみであった。

避難者の安全な収容を確保するためにも, 早急に施設の修繕及び避難所機能の強化を図る必要がある。

位置図



避難所: 湊公園ふれあい館



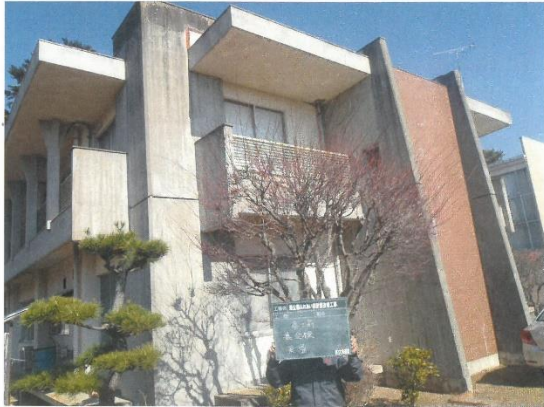
事業結果

耐震改修工事設計業務（平成 25 年度）

耐震改修工事（平成 26, 27 年度）

耐震改修工事監理業務（平成 26, 27 年度）

当該事業により湊公園ふれあい館は、設定した耐震性能を満たし、避難所として機能の強化を図ることができた。



事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

本事業と同じ時期に湊公園周辺の津波避難路整備事業を行ったが、その避難路の利用者最大 470 名程度を収容できる避難所が必要であったため、災害時最大 480 名を収容できる避難所として湊公園ふれあい館の改修工事を行った。耐震改修後は大震災よりも小さな規模の災害しか起こっていないものの、令和 2 年度末時点で既に延べ 52 名の避難者を受け入れており、避難所として効果的に利用されているものとする。

② コストに関する調査・分析・評価

本事業においては、入札により設計委託、工事、監理業務委託の契約を締結しており、コストに関しては適正であったと考える。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

	当初想定	実績
設計	平成 25 年度	平成 25 年度
工事・監理	平成 26 年度	平成 26 年度～平成 27 年度

本工事は、湊公園ふれあい館の施設運営を一部維持させながらの施工となり、工事施工にあたって作業可能日等の制約を受けたことから工期の延長を行い、事業期間を1年延伸した。

事業担当部局

ひたちなか市市民生活部市民活動課 電話番号：029-273-0111（内線 3220）